



## 地区回覧・HP用

今回の学校だよりは、4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果概要についての特集号です。本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を地域の皆様にお知らせします。

## 全国学力・学習状況調査の分析結果の概要

### 1. 調査の内容について

- (1) 実施日と実施学年 令和5年4月18日(木) 第6学年  
(2) 調査内容 出題範囲は、5年生までの学習内容

#### 【教科に関する調査】

- ◆国語、算数に関する問題
- ◆出題内容は、次の2点を一体的に問うもの
  - 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力等に関わる内容。

#### 【生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査】

- ◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

### 2. 本校の結果概要について

- 算数は全国平均と比べて大きく10ポイント以上上回っている。国語も全国平均を5ポイント以上上回っており、学習の状況は概ね良好であると言える。
- 2教科とも「その教科の勉強が好き」「授業の内容が分かる」と答えた児童は、全国平均を上回っている。学習への関心が高く、意欲的に取り組み、学習が身に付いていると言える。
- 学力のばらつきを表す標準偏差は、2教科とも全国平均より小さい。即ち、学力のばらつきが小さく、学習が苦手な児童が全国平均より少ない。
- 3年前、児童が3年生の時の1学期、学校はコロナで休校した。また、一昨年度分散登校も行われた。しかし、その間の学習やそれ以降の指導により学力の面での影響は表れていないと考える。

#### 国語の概要

- ◇ 国語が好きで、学習の内容も分かる児童が全国平均より多い。平均正答率も全国平均を上回っている。7割以上の児童が全国平均正答数9.4問を上回る10問以上の正答率である。
- ◇ 学力のばらつきを表す標準偏差は2.3と全国標準偏差2.9より小さく、国語が苦手な児童は少ない。
- ◇ 無解答率は、全ての問題で全国平均より低く、何も書けなかった児童は少ない。

#### 算数の概要

- ◇ 算数が好きで、学習内容もよく分かり、算数が得意な児童が多く、8割の児童が全国平均正答数の10問以上の正答率である。
- ◇ 平均正答率は、全国平均より10ポイント以上高く、学力が身に付いている児童が多い。
- ◇ 標準偏差は全国3.8、本校3.3と、学力のばらつきは小さく、算数が苦手な児童は全国平均より少ない。

### 3. 生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査結果から見られる特徴

#### 児童質問紙の分析

##### 学校生活について

◎学校生活をよりよくしようと心掛けている児童が多く、良好な友達関係の中で、協力して活動してきたことが楽しい学校生活につながったと考える。また、人の役に立ちたい、将来の夢や希望を持っているといった挑戦心が高い。課題としては、PCやタブレットなどのICT機器を授業で使う頻度が全国平均よりも低く、効果的な活用方法を引き続き指導していく必要がある。

##### 生活面について

◎基本的な生活習慣が身に付いており、自己有用感や規範意識が高い。また、家庭での学習に計画的に取り組んでいる。

##### 学習に向かう意識について

- ◎国語・算数・英語とも意欲的に取り組んでいる。また、学習内容を理解している。国語と算数は、学力調査の結果とも結びついている。
- ◎自分で考え、自分から取り組み、発表する際には自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
- ◎学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し次の学習につなげることができている。学んだことを他の学習で生かしている。

##### 地域との関わりについて

◎地域や社会と関わろうとする意識は高いが、コロナ禍で地域の行事が減っている時期が長かったため、地域と関わる機会が少なかったと考えられる。

### 4. 今後の学校経営の方向性

#### ○基本的な生活習慣等の育成を図ります

今後も引き続きあいさつ運動や無言清掃の推進などを通して、学習のもととなる基本的な生活習慣の定着を図ります。家庭との連携をさらに深め、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化を図ります。特に、西中学校区3校連携の中で、長時間のテレビ視聴やゲーム、スマートフォン、タブレット等の長時間使用による悪影響を排し、生活リズムの確立を図る取組を行います。

また、コロナの影響で薄くなりつつあった地域との関わりについて、学校運営協議会の導入を機に、家庭・地域・学校との密なる連携を図りながら、子ども達の危険予知能力・危機回避能力の育成、ふるさとを愛する心の育成、地域に開かれた学校の創造をめざします。

#### ○「思い遣る心」醸成し、より良い学級集団づくりを進めます

子どもがより良く学ぶためには、自尊感情や自己肯定感を持ち、自他を尊重し他者と協働できる民主的で安定した学級集団が不可欠です。子どもたちが学級のきまりを守り、「思い遣る心」を持って互いに助け合う学級づくりを進めます。学校行事や学級学年の行事や取組を通して、個人としても学級・学年集団としても成長できるよう、自己決定の場を大切にしながら指導を行います。

#### ○基礎・基本のより一層の定着を図ります

学力の向上を図るため、各学年の発達段階に応じた分かりやすく楽しい授業と個に応じた指導を行い、より一層の基礎・基本の定着を図ります。家庭学習においても、宿題はもちろん、自主学習ノートや市販のドリル等に積極的に取り組めるように指導します。また、ICT機器の活用を含め、深い学びとなるような問題解決型の学習に取り組めるように指導します。

#### ○「やまなしスタンダード」を推進し、「甲府スタイル」を基にした授業改善を図ります

「甲府の子どもの教育総合推進校」として昨年度まで取り組んできた成果をもとに、引き続き子ども達が自分の見方・考え方を「広め・深め・つなぐ」学びを進めるために、見通しと振り返り、動き出したくなる課題提示の更なる実践を通して、子どもたちの思考力や判断力、表現力を育てる「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を行います。また、子ども達の個別最適な学び、協働的な学びを支援できるよう、教科や単元の特性に応じた一人一台端末の効果的な活用に向けて研究を深めていきます。

これらの取組を通して、これからの時代を生き抜く子ども達に求められる「自他を尊重し、協働しながら持続可能な社会の創り手となるための資質・能力」を育成して参ります。